

2009年9月18日

<プレスリリース>

「内外の化繊工業の動向（2009年第2四半期）」について

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会はこの度、「内外の化繊工業の動向（2009年第2四半期）」
をまとめました。以下はその概要です。

担当： 業務調査グループ （Tel: 03-3241-2313）

概 要 (2009年第2四半期)

2009年4-6月のわが国の景気は、依然厳しい状況が続いているものの、在庫調整の一巡や経済対策効果により、月を追う毎に持ち直しつつある。しかし生産活動は依然低い水準であり、雇用情勢の悪化が懸念されている。

化繊景況は、全体経済の縮小により、個人消費、企業の設備投資などの低迷により、衣料、家庭・インテリア、産業資材いずれの用途においても需要は後退している。化繊生産は前期に比べ回復は見られるが、前年比では大きく減少しており水準はまだ低い。

国 内

1) 国内景気は、期後半以降回復の兆しが見られたが、厳しい状況には変わらない。輸出、生産はここに来て持ち直しつつあるものの、個人消費、企業収益、設備投資は依然低迷しており、また雇用情勢も悪化している。衣料用は、4-6月の衣料品売上高は百貨店が前年同期比13.7%減、チェーンストアが13.3%減といずれも前期に続き2桁の減少となり、中高価格ゾーンが特に節約志向、買い控えにより厳しかった。インテリア用は、カーテン、カーペット関連で、マンションの発売戸数(首都圏 前年比18.0%減、近畿圏 13.5%減)、新設住宅着工件数(31.9%減)の減少に加え、事務所・店舗関連の非居住用建築物の着工床面積も低調であったこと、またカーシートは乗用車減産などの影響により苦戦した。資材用は、自動車関連ではシートベルト・エアバッグは期半ばより回復の兆しは見られるが、水準は低いままである。タイヤコードは、トラック・バス、輸出乗用車の不振により厳しかった。また建築関連は、公共投資、民間投資ともに総じて低調で推移した。

2) 生産指数は、繊維工業、化繊、紡績いずれも前年比、前期比ともに減少している。繊維工業は前年比21.0%減、前期比3.5%減であった。うち化繊は前年比33.1%減、前期比1.4%増。紡績は前年比32.4%減、前期比9.7%減と下げ止まりの気配がみられつつある。在庫指数(期末)は、繊維工業前年比5.9%減、化繊6.6%減、紡績3.1%減といずれも減少している。(生産、在庫とも指数ベースの比較)

3) 繊維品輸出は、ドルベースで18.5億ドル・前年比21.7%減、円ベースで1,797億円・27.2%減とともに大きく減少した。形態別(ドルベース)では、繊維原料(前年比12.7%減)、糸類(33.9%減)、織物(22.2%減)、二次製品(20.8%減)いずれも減少した。仕向地別(円ベース)では、全体の40%を占める中国が欧米向け再輸出の不振により722億円・24.1%減、香港(158億円・31.2%減)、アセアン(277億円・22.8%減)をは

じめ、米国（39.8%減）、欧州（42.2%減）、韓国（30.3%減）など主要地域・国向けは大きく減少した。

4) 繊維品輸入は、ドルベースで69.1億ドル・前年比6.0%減、円ベースでは6,733億円・12.2%減と減少した。形態別（ドルベース）では、繊維原料は0.9億ドル・52.0%減、糸類は1.9億ドル・41.3%減、織物は2.4億ドル・28.9%減、二次製品は63.9億ドル・1.8%減と二次製品を除き大幅に減少した。仕出地別（円ベース）では、全体の90%強を占めている東南アジアは6,184億円・9.5%減。ベトナムは267億円・8.7%増と増加したが、最大の仕出国である中国は5,221億円・8.7%減をはじめイタリア（33.3%減）、韓国（20.7%減）、米国（40.2%減）などが減少した。

繊維品輸出・輸入実績

項目	単位	08.4-6	09.1-3	09.4-6	前年比(%)	前期比(%)
繊維品	1000ドル	2,361,012	1,711,487	1,848,361	-21.7	8.0
輸出	百万円	246,743	160,397	179,718	-27.2	12.0
繊維品	1000ドル	7,352,814	7,838,659	6,908,374	-6.0	-11.9
輸入	百万円	767,050	733,718	673,316	-12.2	-8.2
繊維原料	1000ドル	193,791	126,275	93,134	-51.9	-26.2
	百万円	20,245	11,766	9,069	-55.2	-22.9
その他	1000ドル	7,159,023	7,712,384	6,815,240	-4.8	-11.6
	百万円	746,805	721,952	664,247	-11.1	-8.0
二次製品	1000ドル	6,498,684	7,280,354	6,384,844	-1.8	-12.3
	百万円	677,814	681,719	622,348	-8.2	-8.7
輸出レート	円/ドル	104.5	93.7	97.2	-7.0	3.7
輸入レート	円/ドル	104.3	93.6	97.5	-6.6	4.1

(出所)財務省

5) 化繊生産は20.6万トン・前年比27.2%減であったが、前期比では9.4%増となった。うちセルロース繊維は、3.8万トン・前年比12.6%減、前期比3.9%減。合繊は引き続き主力4品種の減産により16.8万トン・前年比29.8%減、前期比13.0%増となった。期末在庫は、11.5万トンと前期比では合繊、セルロース繊維いずれも増加した。

化繊輸出（繊維原料～二次製品）は13.7万トン・前年比21.7%減。レーヨンSは引き続き米国向けを中心に好調に推移し47.4%増(4,375トン)、ナイロンF42.1%減、ポリエステルF52.1%減、アクリルS20.6%減と大幅に減少したが、ポリエステルS1.4%減に止まった。合繊織物(面積ベース)は、長繊維織物が21.9%減、短繊維織物は12.1%減と2桁減が続いている。化繊輸入（繊維原料～二次製品）は21.7万トン・18.0%減。短繊維は0.9万トン・35.7%減、糸類は3.0万トン・45.6%減、織物は1.6万トン・28.8%減、二次製品は5.9万トン・8.3%減といずれも減少した。うち衣類は7.5万トン・7.1%減。

化学繊維の主要指標

項目	単位	08.4-6	09.1-3	09.4-6	前年比(%)	前期比(%)
化繊生産	千ト	283	189	206	-27.2	9.4
セルロース	"	44	40	38	-12.6	-3.9
合 織	"	239	149	168	-29.8	13.0
化繊在庫	"	119	113	115	-3.4	1.3
セルロース	"	15	16	18	18.3	11.2
合 織	"	104	95	97	-6.6	1.6
化繊輸出	千ト	175	127	137	-21.7	8.1
	100万ドル	1,422	1,049	1,154	-18.8	10.0
	億円	1,486	984	1,122	-24.5	14.1
化繊輸入	千ト	264	236	217	-18.0	-8.4
	100万ドル	2,442	2,830	2,301	-5.8	-18.7
	億円	2,547	2,645	2,243	-12.0	-15.2

(出所) 経済産業省、財務省

(注) 在庫は生産者在庫で各年末

6) 主要合織品種の動向は次の通り。

ポリエステルF：生産は 35,999 トン・前年比 43.7%減と 19 期連続で前年実績を下回った。織物生産は 9,263 万㎡・39.8%減であった。用途別では、衣料用は個人消費の低迷により全般に低調であった。主力の婦人用をはじめ、裏地用、スポーツ用、またこれまで比較的順調であった学童向け、輸出高密度織物も苦戦を強いられた。産資用では、主力の自動車向けは、自動車生産の回復に伴って持ち直しの兆しが見られた。タイヤコードはエコカー減税などにより小型車向けは回復しつつあるが、全体としては厳しい。シートベルト、カーシート、自動車向けゴム資材などは自動車の減産による影響を直接受け苦戦しているが、5月以降持ち直しつつある。フィラメント輸出は 4,887 トン・52.1%減。衣料用は健闘したものの、タイヤコード用の強力系の落込みが著しい。輸入も国内需要不振により 1 万 4,692 トン・48.0%減、加工糸、POY、なま糸の主要 3 品種は半減した。

ポリエステルS：生産は 38,357 トン・前年比 20%減。不織布関連は底を打った模様であるが、全般にまだ回復の兆しが見られない。用途別では、紡績用は、主力の綿混が冬物のシーズンインにも係わらず低調。純糸、レーヨン混、毛混いずれも厳しかった。製綿用は、寝装品の末端での販売不振の影響もあり、一段と輸入綿への代替が進み厳しい状況が続いている。不織布用は、用途によって斑模様であるが、衛材は全般に堅調、生活資材はインフルエンザ需要もありマスク、ウェットティッシュ需要が順調、車両資材はハイブリッド車向けを中心に自動車の減産緩和もあり持ち直しつつある。湿式不織布は水処理関連の在庫一巡により底を打った。ステープル輸出は 9,232 トン・前年比 1.3%減、中国、インドネシア向けは増加したが、タイ、米国向けは減少した。またベトナム向け特需は 4 月で終了。一方輸入は、国内需要の不

振により 4,634 トン・26%減、韓国は前年水準を維持しているが、中国、タイ、マレーシアは大きく減少している。

ナイロン F：生産は 15,026 トン、前年比 45.7%減。織物生産は 2,478 万㎡・27.3%減であった。衣料用は、ボトム関係では、カラータイツ、レギンスに加えてトレンカが堅調な末端需要により早めの仕掛りに入るなど順調であるが、主力のレギュラーパンストは需要の減少が懸念されている。ハイテントトリコットは、国内向けは安定しているが、中国向け輸出が現地需要の後退と円高の影響により苦戦した。非衣料用は、自動車関連では、タイヤコードはキャップフライ向けが期半ばより減産緩和により持ち直しが見られているが、バイアスタイヤの在庫調整が進まず回復は遅れている。エアバックもここに来て底を打った模様である。カーペット関係では、車両用は乗用車の輸出・国内販売不振、またタイルカーペスは建築着工件数の減少、他素材への代替により苦戦した。フィラメント輸出は、主力の強力系の減少により 3,243 トン・42.1%減となった。輸入は 4,714 トン・33.2%減。加工系（主にカーペット用）は 24.9%減、強力系は 81.7%減といずれも大きく減少した。

アクリル S：生産は 31,604 トン・前年比 31.8%減。また紡績系生産は 2,906 トン・26.3%減であった。衣料用は、マイクロファイバー使いの保温肌着や婦人軽量肌着向けは昨シーズンに続き好調な出荷が続いている。靴下は中国製ポリエステル綿混品の侵食により苦戦している。建寝装用は、毛布は AN 価格の下落によりアクリル使いへの回帰が見られる。カーペット向けは他素材との競合が激しく苦戦している。輸出では、主力の中国向けステーブル輸出が 18,449 トン・0.7%減と前年の水準に回復した。これは、現地の紡績・カーペット業者が、旧正月明け後 AN 価格を底と見て一斉に買い入れたこと、ここ 2 年不振を極めたフェイクファー用の扁平わたの引き合いが一部で復活したことによる。しかし中国国内の紡績系需要に盛り上がり欠けていること、日本品は製品として欧米に輸出されるため欧米市場の回復に左右されるため、先行きについては依然不透明である。中国以外の市場ではインドネシア（4,076 トン・17.2%減）、アフリカ諸国（3,529 トン・30.1%減）、イラン（2,723 トン・46.3%減）向けはいずれも減少している。

海外

7) 韓国の繊維景況は、引き続き規模の縮小は続いており、業界では、政府に対して競争力回復のため研究開発に対する特別支援法の成立を求めている。

化繊生産は 34.1 万トン・前年比 2.7%減と 6 期連続の減産。主要合繊 4 品種のナイロン F は 7.6 万トン・12.7%減、ポリエステル F は 25.8 万トン・8.0%減、ポリエステル S は 13.9 万トン・7.6%増、アクリル S は 3.0 万トン・20.2%増であった。

繊維品輸出は 30.1 億ドル・17.7%減と 3 期連続の前年実績割れ。繊維原料は 2.6 億ドル・7.4%減、紡織品は 24.2 億ドル・15.4%減、衣類等・二次製品は 3.4 億ドル・25.0%減となった。ベトナム、インドネシアなど韓国企業の進出が多い地域向けは小幅な減少に止まったが、中国、米国、中東向けは大幅減となった。繊維品輸入は 16.7 億ドル・26.1%減、衣料消費の不振を反映し大幅な落ち込みとなった。アセアンからの輸入は堅調に推移したが、中国、日本からの輸入は大幅減となった。

韓国政府は積極的に FTA 戦略を進めており、7 月、インド、EU と相次いで FTA が締結、繊維業界ではこれを機にした輸出拡大に期待が高まっている。

- 8) 台湾の繊維景況は縮小傾向が続いている。繊維業界は、高機能、高性能繊維の開発と非衣料用途の拡大への取り組みを強化している。また中国との関係強化を進め、7 月より当局は繊維分野の中国企業による台湾直接投資を解禁した。さらに、兩岸の自由貿易協定 (ECFA) 締結の動きもみられ、これにより一部品目で中国品との競合激化の警戒感が出ている。

合繊生産は、52.9 万トン・前年比 3.9%減。主要 4 品種は、ナイロン F は 7.6 万トン・12.7%減、ポリエステル F は 25.8 万トン・8.0%減、ポリエステル S は 13.9 万トン・7.6%増、アクリル S は 3.0 万トン・20.2%増であった。その一方で、ポリエステル長繊維織物は 18.3%減、衣類は 24.0%減と大幅な減少が続いている。

繊維品輸出は 24.4 億ドル・前年同期比 19.9%減と 5 期連続の前年実績割れ。繊維原料は 2.3 億ドル・11.2%減、糸類は 4.7 億ドル・12.7%減、織物類は 14.9 億ドル・21.9%減、衣類等二次製品は 2.6 億ドル・27.2%減となった。繊維品輸入は内需の不振により 4.9 億ドル・30.7%減となった。

- 9) 中国の繊維景況は、政府の積極的な内需拡大策の効果もあり、他の国々が依然厳しい状況の中、回復基調にある。繊維生産は、化合繊が 709 万トン・前年比 11.5%増、紡績糸は 621.5 万トン・8.8%増、織物は 144.2 億 m・1.5%減、衣類は 58.0 億点・8.7%増。また不織布は上半期で 26.0%と大幅増となった。

化繊の品種別生産は、レーヨンが 41.7 万トン・16.5%増、合繊が 639.0 万トン・8.5%増。うちポリエステルは 563.0 万トン・8.3%増、ナイロンは 35.8 万トン・41.4%増、アクリルは 17.9 万トン・17.2%増。企業の動きとして、レーヨンの山東海龍、新郷化繊、ポリエステルの盛虹集団 (10 万トン/年)、華亜化繊 (30 万トン/年)、桐昆集団 (40 万トン/年)、恒力集団 (20 万トン/年) が増設を発表している。また上海石化は環境保全型ポリエステルの商業生産、吉林石化が炭素繊維の生産を開始した。

繊維品輸出は、391.8 億ドル・12.6%減。うち繊維原料は 3.4 億ドル・33.7%減、紡織品は 149.2 億ドル・14.5%減、二次製品は 239.1 億ドル・10.9%減。アジア向けは日本を除き不振、欧州向けは減少しているが、米国向けは 08 年末の規制撤廃により微増となった。政府は

繊維品に対し、2月（14% 15%）に続き4月（15% 16%）に増値税還付率の引上げを実施している。繊維品輸入は、58.4億ドル・20.1%減。うち繊維原料は15.0億ドル・32.8%減、紡織品は39.7億ドル・12.9%減、二次製品は3.7億ドル・29.4%減といずれも大きく減少した。

- 10) 米国の合繊景況は、一部で底打ち気配がみられるものの、厳しい状況が続いている。国内向けは紡織、産資、カーペットいずれの用途も不振である。全般に需要の回復が遅れる中、合繊原料価格は上昇しており、合繊メーカーは値上げによる転嫁に努めている。合繊生産は前年同期比21.2%減の61.7万ト、減少幅は前期(26.8%減)に比べ縮小している。ナイロンFは22.8%減の13.5万ト。カーペット用が16.0%減。紡織用、産資用は3割減と大幅減を続けている。ナイロンSは33.0%減の2.4万ト。ポリエステルFは、紡織用、産資用は引き続き減少しているが、カーペット用は持ち直しもあり17.0%減。ポリエステルSは25.8%減の12.8万ト。全ての用途で減少している。商務省は2007年より課している中国産ポリエステルS（主に詰め綿用）への反ダンピング税の延長を決定した。オレフィンFは、Fが19.9%の19.1万ト、Sが7.5%減の4.9万トであった。1~7月の繊維製品輸入は、国内消費の不調から、前年同期比14.2%減の452.9億ドルと減少を続けている。仕出国では最大の中国が3.4%減、ベトナム0.4%増、インド、メキシコは2桁の大幅減であった。

- 11) 欧州（西欧+中東欧+トルコ）の化繊業況は、域内市場の冷え込みにより生産は大きく減少している。合繊原料価格の上昇によるコストアップにより、需給ギャップが拡大し設備過剰問題が顕在化している。工場閉鎖や企業破産などリストラの動きが見られる。ナイロンFは、紡織用は在庫一巡により活気を取り戻しているが、先行きは不透明である。産資用は前期に比べやや改善しているものの、当分厳しい状況が続くと見られている。カーペット用は引き続き低水準。ポリエステルFは、紡織用、産資用ともに需要低迷により厳しい状況が続いている。ポリエステルSは、不織布を除き不振であった。アクリルSは減産幅の縮小により持ち直し機運が見られる。レーヨンSは、世界的な需要の回復によりLenzingの業績は、1~3月の赤字から4~6月は黒字に転換した。紡織用レーヨンFは、独ENKAが経済危機によりElsterberg工場の閉鎖、今後はObernburg工場に集約される。

J C F A

合繊4品種需要実績

・ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:トン)

		2009年4～6月 実績	対前期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	17,288	93.5
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	32,963	100.4
	計	50,251 (14,692)	97.9 (107.5)
輸出 (原系、加工系)		2,433	61.4
需要計		52,684	95.3
在庫		24,504	91.9

(注)国内需要の()内数値は輸入量

・ポリエステルステーブル需要実績

(単位:トン)

		2009年4～6月 実績	対前期比
国内 需要	紡績用 (加工品輸出用含む。)	4,483	86.9
	非紡績用 (加工品輸出用含む。)	27,379	108.5
	計	31,862 (4,634)	108.6 (108.1)
輸出 (ステーブル・トウ・トップ)		7,188	78.2
需要計		39,051	101.3
在庫		26,560	112.4

(注)国内需要の()内数値は輸入量

・ナイロンフィラメント需要実績

(単位:トン)

		2009年4～6月 実績	対前期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	7,862	97.8
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	11,484	92.4
	計	19,346 (4,713)	94.5 (96.7)
輸出 (原系、加工系)		1,901	71.8
需要計		21,247	91.9
在庫		14,280	89.0

(注)国内需要の()内数値は輸入量

・アクリルステーブル需要実績

(単位:トン)

		2009年4～6月 実績	対前期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	7,171	109.6
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	3,030	108.1
	計	10,201 (157)	109.2 (31.8)
輸出 (ステーブル・トウ・トップ)		24,321	124.5
需要計		34,522	119.5
在庫		10,045	81.0

(注)国内需要の()内数値は輸入量